

らっきょうの種球確保対策

種球の良否が収量を大きく左右します。
病害虫被害のない充実した優良種球を確保しましょう。

1 種球の収穫

- (1)種球は10g以上の大球で病害虫被害のない、充実した(乾物が高い)ものを選定し、6月15日以降に収穫しましょう。
- (2)小球はウイルスに感染している可能性があります。調整時や乾燥するときに気を付け取り除きましょう。
- (3)種球の量としては作付面積10a当たり300kg程度必要です。

<良い種球の条件>

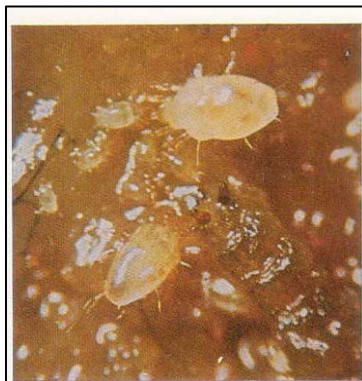
- ①首がよくしまつて充実していること。
- ②外観は光沢があつて砂離れのよいもの。
- ③よく太つて丸型でかたいもの。
- ④病害虫被害のないもの。

2 ネダニ対策

- (1)ネダニの発生密度は3月頃から高くなり始め、6～7月頃にピークに達します。
- (2)ほ場におけるネダニの主な発生源は土壤中に残っているものと種球からの持ち込みですので、農薬の使用基準を遵守して種球消毒は必ず行いましょう。



らっきょうでの被害(右側の株)



成虫の拡大図

3 種球の保管管理

- (1)消毒後は風乾し、10kg程度ずつネット袋に詰めて風通しのよい軒下等に貯蔵してください。
風通しが悪いと、病害により種球が腐ることがありますので注意してください。
- (2)適宜、腐敗などが発生していないか保管している種球を見るようにしましょう。